水難事故に気をつけてもらおうと、香川県の小豆島海上保安署（岡周史署長）は17日、同県土庄町立土庄小学校で安全講習会を開いた。

海や川での万が一の事故に備えて、署員9人が5年生39人を対象に有効な救助方法などを指導。児童らは水中では重くて動きにくいことを確認したり、ペットボトルなどでも身体が浮くことや正しいライフジャケットのつけ方などを学んだ。

河合亮太君(10)は「あまり泳げないので友だちと一緒に海に行くようにしたい」と話していた。

点し2回戦へコマを進めた。

◇香川大会

▽2回戦（レクザム）

坂出	0	0	0	0	0	0	4	0	4	8							
高松北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	（七回コールド）						
飯山	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0							
高専高松	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0							
	0	0	0	0	0	0	3	6									
	0	0	0	0	0	0	3				（延長十四回）						

松山城南	1	0	0	0	0	2	3										
東予	1	0	4	3	1	4	X	13									
八幡浜									（六回コールド）								
内子	0	0	0	0	1	0	1										
新田	2	2	0	6	0	1	X	11									
									（六回コールド）								
▽同（今治市営）																	
松山東	2	0	0	0	0	0	1	0	3								
今治西	0	0	0	0	2	0	2	0	X	4							
新居浜工	1	0	3	0	4	0	0	1	2	11							
伊予農	0	0	0	0	4	0	0	0	4								

高松や徳島で真

は向こう1週間も晴れる日が多い見込み。

このほか、香川県三豊市財田町で33・9度、

四国地方梅雨明け

同県東かがわ市引田では33・7度の今年最高を観測し、高松市33・4度、徳島市32・4度など、各地で真夏日となった。

梅雨期間の降水量は、高松市346・0ミリ（平年218・7ミリ）、徳島市509・5ミリ（同233・0ミリ）と平年を上回った。

トピック最前線

ふるさとウエディング 高松

絆見つめ直す絶好の機会

結婚式のスタイルが多様化するなか、地域の名勝を会場にしたり、昔ながらの風習を生かした「ふるさとウエディング」が静かなブームを呼んでいる。ブライダル会社によると、昨年3月の東日本大震災以降、特に注目を集めるようになったという。ふるさとでの結婚式は「自分のルーツ」をたどり、「自分らしさ」や家族の絆を見つめ直す絶好の機会になっているようだ。

（秋山由美子）

美しい庭園をバックに花嫁行列が歩き、大勢の来園者の祝福を受ける。今年4月、高松市にある国の特別名勝「栗林公園」の掬月亭で初めて結婚式と披露宴が行われた。

式を提案したのは地元のブライダル会社「フェアリー・テイル」。江戸時代初期に建てられた数寄屋風書院造の掬月亭は、これまで茶席などに使用されることはあったが、結婚式の希望が以前から寄せられていたこともあり、10年がかりで公園を管理する香川県と交渉してきた。

「栗林公園での挙式を知って、若いカップルがふるさとに興味を持ってくれるようになった」と同社の藤田徳子社長(40)。ふるさとへのこだわりは自身の結婚式が発端だった。〝ホテル任せ〟に疑問を感じ、「生まれ育った環境や自分のルーツを伝えたい」と手作り招待状やケーキでもてなし、友人の結婚式も地元の良さを引き出す演出をしてきた。

栗林公園でのひと味違った式は好評を得て、9月からは月3組ずつの挙式が可能となった。6月には、買い物客でにぎわう高松市の高松丸亀町商店街を、挙式を済ませたばかりの新郎新婦に歩いてもらった。

藤田さんによると、絆が復興支援のキーワードとなった東日本大震災以降、都会で暮らすカップルたちで「ふるさと」を意識する人が増えたという。「誰と一番つながっていたいか考えるようになったのではないか」と藤田さん。出身地の香川で結婚式を挙げた東京在住のカップルは「都会の生活は〝うたかた〟。本当の自分の居場所は幼なじみがいるふるさとと言っていたことも強く心に残っている」と語る。

全国的にもふるさとウエディングは注目を集めており、ブライダルファッションデザイナーの桂由美さんも長く取り組んでいる。桂さんは、震災で結婚式を挙げられなかった被災地のカップルを支援して昨年7月に合同結婚式を開催。その際、福島県いわき市のカップルは「震災で思いやりや助け合うことの大切さを実感した。いつか故郷へ戻れることを信じ、共に助け合って生きていく」と永遠の愛を誓ったという。

「ふるさとウエディングが家族や身近な人たちとの絆、地域の風習を見直すきっかけになると思う」と、桂さんが会長を務めるNPO法人「全日本ブライダル協会」。藤田さんは「花嫁さんの姿を見るだけで、子供たちや周囲の人たちは幸せな気分になれる。ふだんの生活の中で花嫁さんを見られるまちづくりを目指していきたい」と話した。

国の特別名勝「栗林公園」での結婚式。新郎新婦を多くの来園者が祝福した＝4月、高松市（フェアリー・テイル提供）

フェアリー・テイル　平成10年設立。結婚式やパーティーのプロデュースをはじめ、ウエディングドレスのオーダー製作やレンタル・販売、ウエディンググッズや引き出物などのギフト販売を手がける。今年4月15日に「栗林公園」（高松市）で初めての結婚式を実施。高松城や瀬戸内海の島々での結婚式などをプロデュースしている。（☎087・863・6685）。

◇れきみん講座「墓を見直す」　3時、高松市亀史民俗資料館（☎・4707）。

ある神櫛王墓の解説。定員40人。

◇みんな集まれ　21～29日、香川県の平賀源内記念館や薬草せっけんづくり〟を行う。内容などの問い合わせは探検隊（☎0508＝岡さん）。

◇香川大学公開育てよう！観察　香川県三木町の香近な材料で微生物る。小学3～6年人。受講料2千円日まで。同大生涯ンター（☎087・3）。

◇キッズワーク　11～14日、高松市立ミュージアム。午後1時半から開する「きょろきょろぐ」。各回小・中▽12日午前10時昔の人の暮らしをアムれきしたんけ小・中学生20人、9時半から「学芸しよう」。小学人、無料▽14日午理を通じて知る戦生18人、100円込みは往復はがき い合わせは学芸課22・0247）。

◇あいぽーと　日午後1時半～3洲の沖洲マリンタ・県民活動プラザ088・664・阪人権博物館の「焼肉・ホルモンアン」の演題で講